様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月　 １ 日現在

機関番号：１５３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０８６３

研究課題名（和文）ロシア「大改革」時代の歴史的位置

研究課題名（英文）Historical significance of the Great Reforms by Aleksandr II

研究代表者
吉田　浩（Yoshida, Hiroshi）

岡山大学・社会文化科学研究科・准教授

研究者番号：７０２５０３９７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は大改革の核をなした農奴解放に焦点をあてた。ロシア連邦国立文書館所蔵の皇帝、コンスタンティン大公文書を中心的な資料として用い、次のような結論に至った。(1) 農奴解放は19世紀初頭以来積み重ねられてきた改革の延長線上にある。(2) クリミア戦争は国庫に経済的打撃を与え、経済改革や軍隊の改革を必然化したが、農奴制の廃止を迫る程のものではなかった。(3) 農奴解放の画期は1856年3月の皇帝演説、1857年1月の秘密委員会設置などいくつか考えられるが、実現された形での農奴解放は1858年夏頃にその実施が決定された。

研究成果の概要（英文）：Among several reforms, which consist “ the Great Reforms ” by Aleksandr II, this research focuses on the abolition of serfdom, using such archival materials as the collections of Aleksandr II and Konstantin Nikolaevich of the State Archive of the Russian Federation. I came to the following conclusions. First, the Abolition of Serfdom in Russia is the result of many reforms concerning the serfdom since the beginning of the 19th century. Second, though Crimean War seriously damaged the national treasury, it didn’t make the Emperor decide the abolition of the serfdom. Third, the final decision to realize the plan of the abolition of serfdom was made around the summer of 1858.

研究分野：人文学

キーワード：農奴解放　ロシア　アレクサンドル2世

１．研究開始当初の背景

ロシア大改革時代とは皇帝アレクサンドル 2 世治世下におこなわれた農奴解放、地方自治改革、司法改革、教育改革、経済改革、軍制改革などの一連の改革を指し、自由主義的イデオロギーに基づいている点に共通点がある。この改革を歴史的にどのように位置づけるかについては長い研究史がある。諸改革のうち農奴解放だけを切り離して画期とする見方や、改革全体をひとまとめにして、大改革とは農奴制を基盤とした絶対主義体制から自由主義的思想に基づいて国家を資本主義的な構造に編成変えするものであったという見方が代表的なものである。しかし、短期間に一連の改革が実現した理由は何なのか、従来その点についてあまり問われてこなかった。

２．研究の目的

本研究は、19 世紀半ばにロシアでおこなわれた「大改革」時代を、より大きな歴史的枠組みの中に位置づけることを目的とする。「大改革」について従来はクリミア戦争敗北のインパクトや皇帝アレクサンドル 2 世の個性が強調され、大改革時代が特異で、前後の時代から孤立したものとしてとらえられてきた。本研究は大改革を「19 世紀ロシア史」の中で連続の相として捉え、さらにこの時期に実現されたことが 1917 年のロシア革命以後の社会工学的改革の基礎をなしたという視角から、ロシア史を近現代ヨーロッパ史の中に位置づけることを目的とする。

ただし大改革全体を扱う準備はまだできていないので、今回は大改革の最初におこなわれ、次なる改革を必然化させた農奴解放に焦点を当てる。したがって、なぜ農奴解放がおこなわれたか、前の時代との関連や農奴解放の準備過程を追うことで課題にこたえたい。

農奴解放がおこなわれた原因について長い研究史があるが、定説には至っていない。農民反乱への恐れ(ガーシェンクロン)、農奴制を恥と考える文化(フィールド)、ロシアを軍事大国として復活させる(リーバー、ザハーロヴァ)、農奴制の機能不全(ソヴィエト史学)が代表的な見方であり、なかでもクリミア戦争の敗北が決定的であった(ザイオンチコフスキー)とされる。はじめの二つは正しいにせよ必要条件ではあっても十分条件ではない。軍事大国の復活については軍制改革との関係が明らかにされてはじめて主張できる。農奴制の機能不全については近年の研究(ホック)で否定されている。したがって本研究で明らかにすべき研究対象はクリミア戦争と農奴解放の関係ということになる。この点を明らかにするために、19 世紀初頭からおこなわれてきた部分的農奴解放や農奴制を緩和する諸改革や、クリミア戦争敗北後の皇帝やそのとりまきの動きを詳細に検討することが目的となる。

３．研究の方法

(1)大改革の核となった農奴解放について、それをおこなうことになったきっかけについて再検討する。従来特に強調されてきたクリミア戦争の敗北と農奴解放の関係を考察する。(2)皇帝がなぜ農奴解放の実施を決意したのか、皇帝の日記やコンスタンティン大公(皇帝の弟)、エレーナ大公妃(皇帝の叔母)の人間関係を未公刊資料により明らかにしながら考察する。(3)19 世紀初頭からおこなわれていた部分的農奴解放や農奴解放のもつ問題点をやわらげる諸改革を検討し、1861 年の農奴解放と比較する。(4)19 世紀におけるロシアの文化を考察し、改革がおこなわれた時代背景を検討する。

４．研究成果

本研究は大改革の核をなした農奴解放の始点に焦点をあてた。ロシア連邦国立文書館

所蔵のアレクサンドル 2 世、コンスタンティン大公文書を主要な資料として用い、次のような結論に至った。

(1) 19 世紀前半にはバルト諸県で農奴解放がおこなわれ、南西諸県では土地台帳改革がおこなわれ、ヨーロッパ・ロシアでも自由耕作民制度や義務的農民制度が導入されてきた。これらは政府が農奴制の問題点を認識しておこなったものであり、1861 年の農奴解放はこれら諸改革の延長線上にある。

(2) クリミア戦争は国庫に経済的打撃を与えた。国家財政の赤字は戦争開始から終結までに 6 倍にふくらみ、金準備高は半減した。しかしこれは歳入 1 年分に相当する赤字であり、経済改革や軍隊の改革を必然化させるものであったとしても、農奴制の廃止を迫る程のものではなかった。

(3) 農奴解放の実施に至るまでの画期はいくつか考えられる。従来は 1856 年の皇帝演説や 1857 年の秘密委員会の設置、同年 11 月の南西部諸県総督ナズィーモフ宛の皇帝勅書などが挙げられてきたが、皇帝の動きを詳細に検討した結果、実現された形での農奴解放は 1858 年夏頃に、その実施が決定されたと考えられる。その理由としてエストリャント反乱や銀行危機が決定的な影響を与えたが、この点については更なる検討が必要である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

<u>吉田浩</u>、「帝政ロシアの美食文化」『ユーラシア研究』(査読あり)No.48、46-49 頁、2013 年

〔学会発表〕（計 5　件）

(1)<u>吉田浩</u>、「ロシア農奴解放原因論再考」、西日本ロシア東欧研究者集会、鳥取環境大学(鳥取県鳥取市)、2016 年 3 月 5 日

(2)<u>吉田浩</u>、「ロシア大改革の歴史的意義」、ロシア科学アカデミー世界史研究所研究会、ロシア国立アカデミー人文大学(ロシア・モスクワ市)、2016 年 2 月 24 日

(3)<u>吉田浩</u>、「ロシア農奴解放はいつ始まったのか？」、ロシア史研究会大会、早稲田大学(東京都新宿区)、2015 年 10 月 10 日

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

2016 年 3 月 1 日「ラジオ・コムソモーリスカヤプラウダ」（ロシア）に出演。
http://inostranets.podster.fm/29

６．研究組織

(1)研究代表者

吉田　浩（YOSHIDA, Hiroshi）

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・准

教授

研究者番号：70250397

(2)研究分担者

なし　　(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者

なし　　(　　)

研究者番号：